

保護者の意識が子どもの運動機会に与える影響

発表者 黒澤 踊光
指導教官 加藤 敏弘

キーワード：少子化、運動機会、保護者、運動環境

1. 緒言

近年、我が国の抱える社会問題として少子化が挙げられる。年間の出生数は、第1次ベビーブーム期には約270万人、第2次ベビーブーム期には約210万人であったが、1975（昭和50）年に200万人を割り込み、それ以降毎年減少し続けている¹⁾と言われており、2013（平成25）年の出生数は、102万9,816人であり、前年の103万7,231人より7,415人減少した。このままいくと、我が国の人口は2048（平成60）年には1億人を下回り、2060（平成72）年には8674万人になると推移されている。

少子化が進むに応じて、これまで子どもたちの健全な運動環境を提供してきたスポーツ少年団の解散増え、残された子どもたちの運動機会に影響を与えている。このまま運動機会が失われることで、将来的に健康に問題を抱える大人が増えて行くことが懸念される。将来の我が国の貴重な人材になるであろう、子どもたちの運動機会を守っていくことが課題になっている。保護者をはじめとした国民意識の中で子どもの外遊びやスポーツの重要性を軽視するなどにより、子どもに積極的に体を動かすことをさせなくなったと言われており、これらの状況を改善し、子どもの福祉を充実するためには、子どもの運動する機会を増やすことが有効であり、これに影響を及ぼす大きな要因の一つとして、保護者の意識や態度というものが考えられる。

本研究では、小学生の子どもを持つ保護者の子どもの体力と運動活動への意識と子どもの運動環境への意識が運動時間、運動機会にどのような影響を与えているかを見ていく。また、運動環境の変化に対しての保護者の意識調査を行い、運動機会への影響を分析していく。

2. 研究方法

2-1 対象者

茨城県H市のS小学校区の小学生の保護者104名を対象とした。

2-2 調査方法

平成27年12月に無記名式のアンケートを対象者250名に配布し、104名の回答を得た。回収率は52%であった。

2-3 調査項目

a 子どもの基本属性と運動時間

b スポーツ少年団・スポーツクラブの加入状況
加入の有無に合わせ、それぞれの理由を自由記述で答えてもらった。

c 保護者の運動環境についての意識項目

吉武ら²⁾作成した、子どもの体力と運動活動、子どもの運動環境意識調査表に加え、少子化に関する意識項目計20項目を設定した。

d 総合型スポーツクラブの認知・利用の有無

2-4 分析方法

「子どもの体力と運動活動への意識」、「子どもの運動環境への意識」、「少子化による運動環境の変化への意識」のそれぞれの項目への意識と子どもの運動時間、スポーツ少年団・スポーツクラブの加入の有無をMicrosoft社製Excel 2011 for macによりT検定を行い、有意水準5%以下とした。

3. 結果と考察

3-1 子どもの運動に関する意識調査とスポーツ少年団・クラブ加入の有無

スポーツ少年団・スポーツクラブ加入者68人と非加入者36人を「子どもの体力と運動活動への意識」、「子どもの運動環境への意識」、「少子化による運動環境の変化への意識」において、統計的検定（対応のあるt検定）を行った。その結果、「保護者の子どもの運動に関する意識」において、加入者の平均点は3.6となった。非加入者の平均点は2.99となった。ここに5%水準以下であり、有意差が認められた。スポーツ少年団・クラブ加入している子どもの保護者は「子どもの体力と運動活動への意識」と「子どもの運動環境への意識」が強い傾向にあった。加入理由と非加入理由と照らし合わせることで、子どもがスポーツ少年団・クラブに加入していることで保護者の意識の強さが強くなっていること、保護者の意識の強さが子どもを加入に導いていることが考えられた。

ここで有意な差が認められた要因を考察するにあたって、加入理由6因子、非加入理由3因子の中に「親の意向」と「本人の意向」の同じ2つの因子が見られた。加入理由において「親の意向」を選んだ21人、非加入理由において「親の意向」を選んだ24人を対応のあるT検定を行った。また、加入理由において「本人の意向」を選んだ9人、非加入理由において「本人の意向」を選んだ5人を検定した。

保護者の子どもの運動に関する意識」において、「親の意向」と「本人の意向」の両方に5%水準以下であり、有意差が認められた。「保護者の子どもの運動環境への意識」においても、「親の意向」と「本人の意向」の両方に5%水準以下であり、有意な差が認められた。また「少子化による運動環境の変化の意識」では、「親の意向」には有意確率は0.053であり有意傾向にあったが、「本人の意向」においては、有意確率0.241となり、有意な差は見られなかった。「保護者の子どもの運動に関する意識」と「保護者の子どもの運動環境への意識」は「親の意向」、「本人の意向」に関わらず、スポーツ少年団・スポーツクラブ加入者は非加入者よりも有意な差で高いことがわかった。いまのところ、加入

者が非加入者よりも有意な差があり、保護者の意識が高いために子どもがスポーツ少年団・スポーツクラブに加入している、または子どもが加入しているために、親の意識が高くなっていることがよりあきらかになったと考えられる。

3-2 子どもの運動に関する意識調査と運動時間

運動時間に注目すると、非加入者の週あたりの運動時間、83%が1時間未満と答えており、加入者の平均時間得点が3.08なのに対し、非加入者は1.16であった。そこで時間得点2以下の回答者全36人と、時間の得点2以下の回答者24人を対応のあるT検定を行った。「保護者の子どもの運動に関する意識」、「保護者の子どもの運動環境への意識」において、5%水準以下であり、有意差が認められた。

「少子化による運動環境の変化の意識」においては、有意確率0.7734であり有意な差は見られなかった。このことから、「保護者の子どもの運動に関する意識」、「保護者の子どもの運動環境への意識」において、スポーツ少年団・スポーツクラブ加入者は非加入者よりも有意な差で高いことがわかった。次に、加入者内の週あたりの運動時間で「3時間未満」の回答者24人と「5時間以上」の回答者23人を対応のあるT検定を行った。「保護者の子どもの体力と運動に関する意識」と「少子化による運動環境の変化の意識」において、5%水準以下であり、有意差が認められた。「保護者の子どもの運動環境への意識」においては有意確率0.8216であり有意な差は見られなかった。

「子どもの体力と運動活動への意識」と「少子化による運動環境の変化の意識」において、運動時間が「3時間未満」の回答者よりも「5時間以上」は有意な差で高いことがわかった。また週あたりの運動時間の長い子どもがいる保護者は「少子化による運動環境の変化の意識」強いということが考えられる。得られた差の要因を考察するにあたって、「少子化による運動環境の変化の意識」の平均値3.45を基準に上位群人と下位群35人に分け、週あたりの運動時間得点と統計的検定(対応のあるt検定)を行った。スポーツ少年団・クラブ加入者68人を平均得点3.08基準に上位群35人と下位群33人に分類し、週あたりの運動時間得点とT検定を行った。週あたりの運動時間において加入者内での「少子化による運動環境の変化の意識」の上位群と下位群では5%水準以下であり、有意差が認められた。表11と表12から全体での週あたりの運動時間は「少子化による運動環境の変化の意識」の強さによって左右されなかったが、スポーツ少年団・スポーツクラブ加入していることによって運動時間は増える傾向にあると考えられた。

3-3 子どもの運動に関する意識と性差の関連

「保護者の子どもの体力と運動活動への意識」、「保護者の子どもの運動環境への意識」、「少子化による運動環境の変化の意識」において、男子と女子の子どもを持つ保護者の意識に差が現れるか対応のあるT検定を行なった。「保護者の子どもの体力と運動に関する意識」において、男子小学生の保護者と女子小学生の保護者では、5%水準以下であり有意差が認められた。「保護者の子どもの運動

環境への意識」と「少子化による運動環境の変化の意識」においては、それぞれ有意確率が0.00889と0.1577であり有意な差は見られなかった。その他に週あたりの運動時間、加入理由と非加入理由との分析を行ったが、有意な差を得ることはできなかった。

4. まとめ

- 1) スポーツ少年団・クラブ加入している子どもの保護者は「子どもの体力と運動活動への意識」と「子どもの運動環境への意識」が強い傾向にあった。
- 2) 保護者の意識の強さが子どもを加入に導いている。
- 3) 「子どもの体力と運動活動への意識」と「子どもの運動環境への意識」において、加入者の保護者が非加入者の保護者より意識が強い傾向にあった。

5. 文献

- 1) 内閣府(2015)少子化社会対策白書
- 2) 吉武信二(2014)地域における子どもの運動・スポーツ活動の現状の問題点と課題に関する研究 p2 L15~L17
- 3) 春日晃章(2008)「子どもゆとり体力を育む英才教育」p208 121 他2

表1 保護者の子どもの体力と運動活動への意識 (9項目)

| |
|------------------------------------|
| 子どもにとって体力・運動能力を高めることは大事だと思う |
| 自分が子どもの時に比べて今の子どもの体力は低下していると思う |
| 家庭で子どもの健康・体力のため食事内容や睡眠時間に注意をするべきだ |
| 学校以外でも子どもの体力を向上させる取組みや環境づくりが必要だと思う |
| あなたは、運動スポーツが好きだ |
| あなたのお子様は運動が好きだと思う |
| あなたのお子様は体育の授業が得意だと思う |
| 子どもにはどれかひとつのスポーツに打ち込んでほしい |
| 子どものうちに様々なスポーツに取り組んでほしい |

表2 保護者の子どもの運動環境への意識 (8項目)

| |
|-------------------------------------|
| 最近、外で遊んでいる子どもが減ってきている |
| 地域にはもっと子どもが色々な運動・スポーツができる環境が必要だと思う |
| 子どものスポーツクラブ、スポーツ少年団で費用がかかるのは仕方がないこと |
| 指導者の確保のために謝金を払うことは当たり前のことだ |
| 地域にはよりよい運動、スポーツ環境が必要 |
| この地域には子どもが好きなスポーツ活動ができる環境が整っていると思う |
| 子どもたちだけで外で遊ぶのは危険だ |
| 自分の子どものときに比べ運動、スポーツの環境が悪くなった |

| 表3 加入者と非加入者の運動時間 | 全体の平均 n=60 | 加入者 n=24 | 非加入者 n=36 | 有意確率 (両側) |
|------------------|---------------|-------------|--------------|--------------|
| 体力と運動活動の意識 | 3.27 | 3.71 | 2.99 | 9.08817E-12 |
| 運動環境への意識 | 3.34 | 3.71 | 3.07 | 1.7279E-09 |
| 少子化への意識 | 3.33 | 3.27 | 3.31 | 0.7734 |